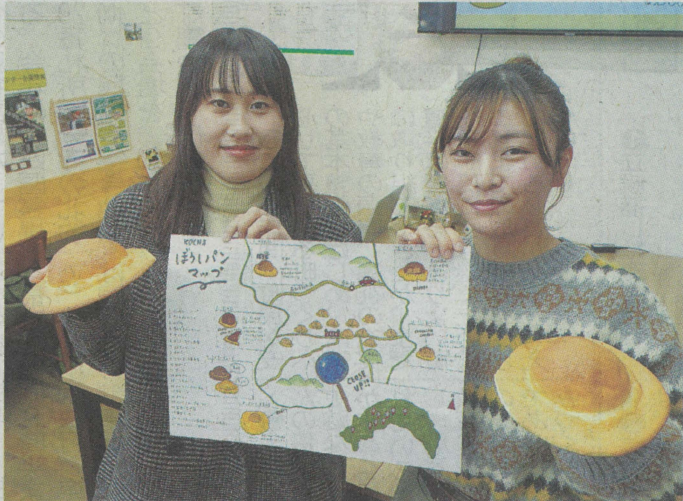


帽子パン地図誕生

高知大生ら作製魅力PR



県内の大学生が「ほいしパンマップ」を
作製した
(高知市朝倉横町)

高知のご当地パンとして知られる帽子パンの魅力を県内外に伝えようと、高知大学の学生らが動きだした。まずは、販売しているパン店をまとめた地図を作製し、2日に発表。

「全国で愛されるためにも、まずは県内から盛り上がっていきましよう」と話している。

旅行情報誌「じゃらん」がネット上でアンケートを取った「全国発売してほしいパンランキング」(10月発表)で、帽子パンは、静岡の牛乳あんパンに続く

て2位となるなど、注目をされている。

今回、地図を作ったのは高知大学4年の大熊理子さんの22と、アルバイト仲間の同3年の島本みくるさん(20)。大熊さんは香川出身だが、母が高知育ちとあって、幼い頃から

ら帽子パンに親しんできたという。

だが今年、インターンとして県内のパン市場調査に携わった際、「帽子パンに特化して魅力を発信する媒体がない」と気付いた。そこで「マーケティングに興味がある人」をS

NSで募集。県大生らなどとした。

4人が集まった。今年7月には23種類を食し、つばの厚さやしつとり具合など店ごとに特徴があることを「発見」。課題は、「県外の人に買ってもらえる機会づくり」「ネットでの認知度はまだまだ低い」

は「今後は県東部や西部などのバージョンを作って、店の掲載数も増やしたい」と話した。

高知市生まれの島本さんも、「当たり前にありすぎて、見過ごしてた私みたいな人も多いはず。形のかわいさや素材で優しい味など魅力をアピールして、購買意欲につなげたい」と熱く語った。